

会 議 録				
令和 8 年度第 1 回 生活支援事業協議体		日 時	令和 8 年 5 月 2 6 日（火） 1 4 時 0 0 分～1 6 時 0 0 分	場 所 小金井市前原暫定集 会施設 1 階 A 会議室
事務局		小金井市福祉保健部介護福祉課		
出席者	委 員	高良委員長（法政大学） 高橋委員（社会福祉協議会） 清水委員（介護事業者連絡会） 尾崎委員（民生委員児童委員協議会） 千田委員（地域活動代表者） 下野委員（地域活動代表者） 鈴木委員（町会・自治会） 第 2 層コーディネーター 松村委員（小金井きた地域包括支援センター） 中島委員（小金井ひがし地域包括支援センター） 河合委員（小金井みなみ地域包括支援センター） 淵 委員（小金井にし地域包括支援センター）		
	事務局	第 1 層コーディネーター 菊地原氏（小金井市 介護福祉課） 松下高齢福祉担当課長、田村係長、木津（介護福祉課）		
傍聴の可否		◎可 ・ 一部不可 ・ 不可	傍聴者数	0 人
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1 開会				
2 議題				
(1) 副委員長の選出				
(2) 報告事項				
① 生活支援事業年間スケジュール				
② 令和 7 年度第 9 回から第 1 1 回生活支援連絡会報告				
③ 生活支援コーディネーター活動報告（1 2 月分～3 月分）				
④ 令和 7 年度各地域包括支援センター活動報告				
⑤ 令和 8 年度各地域包括支援センター活動目標				
(3) 検討事項				
地域デビューのきっかけアンケート結果				
地域課題について				
3 その他				
次回協議体の開催予定				
4 閉会				
1 開会				
高齢福祉担当課長からの挨拶				
2 議題（1）副委員長の選出について				
委員の互選により社会福祉協議会の高橋委員が副委員長に就任する。				
2 議題（2）報告事項				
①生活支援事業年間スケジュールについて				

事務局より資料1を基に説明

今年度のスマホ講座について

東京都スマートフォン利用普及啓発事業にて一定程度の知識がある方向けの復習や相談ができる教室が新設されたため、高齢者のデジタルデバインド対策としてその事業を活用する。市で会議室を用意し東京都の事務局より講師を派遣する形で、スマートフォン教室を年4回実施する予定。

スマホサポーターの活動先である、スマホちょこっと相談室について6月よりぷらっとふぉーむ六地蔵で開催日を毎月1回増やす旨報告。

プレシニア・シニアのための社会参加講座を7月11日（土）に開催することを報告。昨年度に作成した応援ブックについて説明。

（委員長）

何か質問や要望はあるか。

（千田委員）

今年の年間活動予定の11月11日には、何かをやるという理解でよろしいか。

（事務局）

お元気サミットの生活支援事業の枠で、まだ内容は決まっていなかったが何かしらやる予定。

（高良委員長）

今年のシニアのためのやさしいスマホ講座が始まっているが、参加者は何名か。

（事務局）

参加者は5名でまだ使い方が不安な方ばかり、じっくり2時間かけて行った。受講者が納得しながら教わる講座になっている。

（高良委員長）

ちょこっとスマホ相談室はどうか。

（事務局）

サポーターの方々は精力的に活動している。

先日NHKの取材が入り、さらなる周知ができると考えている。

6月24日水曜日午前8時15分から9時54分までのうちボランティア特集の中で放映されると聞いている。

（高良委員長）

スマホのサポーターというボランティア活動について地域で継続して活動していると共に高齢者をサポートしているこのような活動だからこそ、NHKも取材に来たのだと思う。サポーター活動としてのやりがい創出の場と高齢者のネットワーク作りの場になっていることがすばらしいので、継続して行ってほしい。

この点について他によろしいか。

あと、応援ブックや応援マップのホームページの掲載について、見やすい形になっているので、あわせて活用いただきたい。

それでは続いて、報告事項②アンケート結果について説明をお願いしたい。

（事務局）

②地域デビューのきっかけアンケート結果について

昨年度に地域デビューガイドを作成し、どのように周知すればより有効なのかと考える中で、まずは何かのヒントになればと思いアンケート調査を行った。

調査方法は市の公式LINEと市のXにLogoフォームで作成したアンケートのURLを添付し、令和7年9月2日から令和8年2月28日までの半年の間、日曜日と水

曜日の午後３時の週２回の頻度で配信した。

ＬＩＮＥ配信の対象者は、メッセージ配信のジャンルの「健康・福祉」及び「市民活動・生涯学習」を選択している方で、対象年代は、未回答と６０代、７０代以上を抽出したところ２，３１３名いた。そのうち７４３名の方が閲覧していて、うち３０８名の方から回答をいただいた。

３０８名のうち６０歳から６９歳、比較的若い方が４４％を占め、７０から７９歳までの方が４２％を占めていた。

男女の割合は６割が女性で、回答者の世帯構成について高齢者ひとり暮らし及び高齢者のみ夫婦２人暮らしの方が７２％を占めており高齢者のみの世帯の方の地域参加への意識が高いことが分かった。

また、応援ブックや応援マップの認知度は４６％と半数に満たない結果となった。応援ブックや応援マップの存在について市報や市ホームページ、市公式ＬＩＮＥＸで知った方が半数以上で、その他、図書館、公民館、市の公共施設に出向いて知った方が２２％だった。

地域デビューガイドの認知度は２４％で、アンケートに添付した地域デビューガイドを見て興味があると回答した方は７４％だった。

さらに、地域デビューに関連する質問でどんな活動をしたいかについては、講演会や講座への参加と、趣味活動に参加したいという、回答がそれぞれ３０％を占めた。

次いでボランティア活動が１０％、体操に参加したいが７％を占めていた。

最後に、現在の地域活動のきっかけについて、どこで知ったのかは市報、市ＬＩＮＥ、Ｘで知ったが５８％で、市ホームページを検索した方が６％、家族や近所の方に教えてもらった方が６％、その他まだ仕事が忙しく地域デビューできてない方が１５％、参加したいがきっかけがなく探している方が１２％という回答であった。

未だ約３割が退職後に地域デビューをしていない又は出来ていない状況であると分かった。

（高良委員長）

やったことに対して随時どのような状況か、また実際に対象者がどのように繋がっているのかなどを確認することは必要なことだと思う。

このアンケート結果を踏まえてどのように活用し、どのように伝えればいいのか継続して検討していただきたい。結果をご覧いただいて意見や質問などないか。

地域デビューガイドはどのように周知しているのか。

（事務局）

地域デビューガイドの広報については市報や市ホームページ、市ＬＩＮＥ、Ｘにデータを貼り付けて配信したり、実際にガイドを市の公共施設や駅等へ配架したり、介護福祉課で行う色々な事業で参加者に配付する形で周知している。また、各包括支援センターにはデータを送っているので、生活支援コーディネーターが色々な通いの場の訪問や、ご相談の際に必要な応じて活用していると思う。

（高良委員長）

必要な方に活用して、その方が繋がっていくと思う。他に質問はよろしいか。それでは続いて、次の議題について説明をいただきたい。

（事務局）

③令和７年度第９回から第１１回までの生活支援連絡会報告について

第１層及び第２層生活支援コーディネーターと市の打ち合わせをした会議録となっている。

今日はデータを持っていないので正確ではないが、友愛活動を続けていることでの受賞や会員増強運動奨励賞等の複数の受賞をされている、なのでそこそこ入会者はいえると思う。

もはや悠友クラブはお年を召した方が行く場ではないことを知っていただきたい。

応援ブックの説明が間違っており入会年齢は概ね50歳が正しい。また、緑長生会の会長は50歳ごろにこの会に引き込まれたと伺っている。

(千田委員)

確かにこれ見ると、いろんな活動をやっていることが分かる。

(高良委員長)

全国的に老人クラブは加入が減っている。また千田委員がおっしゃったように老人というイメージが付いてしまっていることを考えると、そのイメージアップも含めて50歳以上から入れることを周知することで、実際の活動がより活発化する状況が作れるのではないかと考える。なので、これを1つの成功事例として確認していただきたい。

次はみなみ包括の報告をお願いしたい。

(河合委員)

少しでも地域の方に認知症の方への理解を深めていただけるように、認知症地域支援推進員と連携してミニ認知症講座を各地域のサロンで行うように調整している。

認知症になっても介護保険サービスの活用だけではなく、地域の活動に参加したい等のニーズもあるため、地域の活動先と情報共有もしていきたい。

第二層協議体としてサロン連絡会を行っているが、そのサロン連絡会でサロン立上げ運営マニュアルを作成することになった。

理由として担い手になろうという方や会を立ち上げたい方にとって、サロンの立ち上げはハードルが高いことだと思うので、会の立ち上げの流れや会を継続していく方法について次世代の方の参考になるようなものを作ろうという話になった。

また他の分野との連携として、毎年昨今、第2保育園の光の子フェスタで、社会福祉協議会の地域福祉コーディネーターの方と一緒に協力をして、小金井市障害者福祉センターが行うファッションショーにおいて、みなみ圏域に住んでいる元服飾学校の先生を紹介し、そういった作業場の情報提供をすることで他の分野と少しでも繋がりを続けたいと考えている。

(高良委員長)

こちらについて何か質問や意見はないか。

みなみ圏域ではサロン連絡会を継続しているが、その立ち上げマニュアルを作るのは、その連絡会に参加している方から出た意見なのか。

(河合委員)

実は課題として、どうやったら担い手になれる方を探せるのか。また、担い手になるのはハードルが高いのではないかという話になった。私からこういうブックを作ってる自治体があると紹介したところ、皆さんが作成することに賛同した。

(高良委員長)

もうすでに他の自治体で作っているものなどを参考にしながら、その地域の状況を踏まえて、必要なポイントを加えながら作るとすぐに活用できると思う。

それを作ろうとすることによって、一緒に活動している方々の連携も強化されるし、その中から他の活動団体の方たちも巻き込んでいくのも1つのやり方だと思う。

(千田委員)

サロン連絡会は、みなみ包括だけの取り組みだと聞いたがそうなのか。
他の圏域ではやっていないのか。

(河合委員)

他の圏域でももちろんやっているところもある。

サロン連絡会は前者から引き継いだときに既にあった取り組みで、昨今サロンの集まりを行う中で、横のつながりを継続的にしていこうと発足した。

(千田委員)

他の圏域でもなぜ同じようにやらないのか伺いたい。みなみ圏域のこの連絡会はいいことだと思うし、他の圏域でも展開すべきだと思う。

(高良委員長)

みなみ圏域では連絡会が必要だということで開催している。

他の圏域に関しても必要性があればやっていくと思うが、きた圏域では開催しているのか。

(松村委員)

昨年度か一昨年度あたりに活動目標にしていたこともあり、活動団体に声かけしたところニーズがなかったようで成立しなかった。

圏域によって活発に活動されている団体や、連携をして良くしたいと思っている方々と、もう、まとまって楽しくやっている団体とそれぞれで、私達はそれぞれを尊重したいと考えている。

(高良委員長)

ひがし圏域はどうか。

(中島委員)

私の方から声掛けして聞いてみたことがないので、今後に声掛けして結果は今後の協議体で報告する。

(高良委員長)

にし圏域はどうか。

(淵委員)

他の圏域の活動を参考に、また圏域内でサロン活動継続に関する課題があったことから、昨年1度だけ各団体の中心になる方々や、住民の方々も含めて情報交換会を行った。

そこでは皆さんが抱えている課題や活動継続の為に取り組んでいる工夫について情報共有ができたので、今年度も継続できたらと計画している。

(高良委員長)

まずはこういうやり方があるということを全体で共有して、あとはもうエリアごとに必要性があればやっていくという状況だと思う。

(千田委員)

そういう機会に参加して、いろんな情報を知ってもらう人を増やすことが、応援ブックを見たことがない人にも知ってもらうことに繋がると思う。本当に知らない人がたくさんいることや、サロン連絡会によってサロンの悩みが、解消できる可能性があるかもしれないので活用できたらいいと思う。

(高良委員長)

少なくとも開催する予定があるので、関連する活動団体の方々にはぜひ知っていただいて、参加したい方にはぜひ参加していただけるような環境を作るのは不可欠だと思うので、ぜひそのあたりの周知のをお願いしたい。

(鈴木委員)

前原二丁目会におしゃべりサロンというのがあって、主催者は毎回集まりのたびにテーマを変えて苦労されている。先ほどの連絡会などでいろんな情報を集めて、おそらくその集まりの時に出的話を活用しているのだと思う。

1つ大きな課題があって、今やっている方がいるからこそ出来ている。ところがその方はもう高齢で体の具合が悪くなって来て、今後だれか引き継ぐ方がいるのかという課題がある。もう町会も同じ課題で今すごく悩んでいる。

(高良委員長)

その点についてはこの協議会でずいぶん課題として話し合った。

その課題に対して話し合い場の一つとしてサロン連絡会が始まって、どうにかこのつながりを生かせないのか、その他にも新たな方々に参加してもらうためにはどうすればいいのかを検討したが、なかなか決め手となるものは出なかった。

ただ、今まで話し合ったことや、これからもやっていこうとしてるものの全部繋がっていると思う。

必ず少しずつでも皆さんに意識をもってもらうこと、応援ブックや地域デビューガイドについても知ってもらい、地域のことに目を向けてもらえるような体制を作っていく中で、アクションを起こすことができる環境が作られると思う。サロンの立ち上げのマニュアルを作ることが、きっかけになることもある。

また活動継続について困っている方の相談先は、生活支援コーディネーターであることは、ある程度皆さん分かっていると思う。

そこからどうやって次の方に引き継いでいくのかを色々考えていきながら、全体として対応しているがピンポイントで、必ず解決できる方法は見出せていない。

この後、今日の地域課題について検討するので、またご意見をいただきたい。

次はひがし包括の報告をお願いしたい。

(中島委員)

1点目域住民が地域課題を検討する機会が減っていることについて。

生活支援コーディネーターとして色々とサロンに出向いて地域の方の声を聞く機会があるが、関係を深める所や話合いの場が少ない、ほとんどない状況だと感じる。

また、活動している方はその活動先で話し合っ解決できるかもしれないが、その活動先でも解決できないこともあると思うので、その部分について一緒に考えて取り組んでくれる方をどう見つけていくかから、始めていかなければと考えている。

あと2点目に、必要としているものやスキルのマッチングがうまくいかない課題について。

こちらは、以前から課題となっているちょっとした困りごとという課題と通じるものがあるが、情報を知ることにより解決できるものもある。必要としている情報を整理して、ひがし包括ライン等で情報提供の継続をしていこうと思っている。

また二つの課題を通して地域の方に地域包括支援センターや、生活支援コーディネーターを知ってもらうことができたと思う。包括イベントのチラシの作成や、昨年度行ったお隣さんカフェでの包括支援センターについての紹介イベント等を別の機会で作出来たらと考えている。

(高良委員長)

何か質問等あるか。

(鈴木委員)

ちょっとした困り事について、うちの地域の1人がワンコインで例えば電球の交換

などのそういうサービスをやろうということで、多分社協と相談しながら事業を立ち上げようとしているが、保険とか何か色々難しいことがあるようで、それを全部クリアしないと立ち上げられないと悩んでいるようだ。なので、社協からの御指導をいただきたい。

(高良委員長)

それについて何かあるか。

(高橋委員)

社協とのやり取りではなくて、社協のサロンの何か助成金的なものを使えるかとか、そういったことで相談いただいていると思う。社協にも情報は入ってきている。そういった活動を地域の方が事業として始めていただけるのはとてもありがたいので、応援していきたい。

(高良委員長)

これは今、もう始められているか、それともまだなのか。

(鈴木委員)

初めに近所の人にやっていて、今、そういう事業体をつくろうとしたところで困っていた。

(高良委員長)

そういう事業の立ち上げ支援は色々あるが、東京都でもやっていると思う。こちらにはそういった支援はあるか。

(事務局)

市の介護福祉課ではないと思う。

(高良委員長)

立ち上げ支援のようなものはないか。

(事務局)

社会福祉協議会にそういったサロン支援の窓口があると思う。

(高良委員長)

でも、サロンではなく結局事業立ち上げだと思うが。

(高橋委員)

個人的にボランティアをしたい、逆にボランティアを募集したい方の相談窓口がボランティアセンターだが、もう一つ市民協働支援センター準備室と言われているところがある。それは同じ社協内にあり、そこが団体の立ち上げ支援を行っているので、私も協働支援のメンバーの方から話を伺っている。市民協働支援センターは全国から来る助成金などの情報を共有している。この前も団体が集まってどういう団体をつくりたいのかヒアリングを行いアドバイスをもらっていたので、団体の立ち上げは市民協働支援センターがいいと思う。

(高良委員長)

その方は最初に1人でやろうとしている感じか。

(鈴木委員)

学芸大の学生と一緒に活動しているようだ。

(高良委員長)

そういうものは今いっぱいある話なので、小金井市としてすぐ分かるように一覧にまとめればよいと思う。

(千田委員)

先ほどの準備室は団体設立だとかの支援をしていることは知っている。団体の設立

というだけであればそこに相談するのも1つだと思う。ただ、事業体をどういう形にするのか、責任だとか資金についての話になると簡単ではない。

(高良委員長)

法人格を取ることになると思う。

(千田委員)

今、シルバー人材センターがそういう事業体として活動している。トラブルがあったときに責任を持てないからで、単なるボランティアだとただでやることでのなるので、そこら辺はよく気をつけないといけないと思う。

(事務局)

創業支援というところで小金井市の経済課で起業予定の方、創業予定の方、創業5年以内の方を対象にした支援を実施しているようなので、NPOとかが対象になるのか詳細はちょっと分からないが、創業時の融資や開業資金の援助について優遇措置があるらしい。

(高良委員長)

今、起業を促すサポートはいっぱいやっているはずなので、それを活用するのが一番早い気がする。ただ、法人格を何にするかだと思う。NPOとかはまた別の大変さが出てくるので、会員にしたり、届出をしなければいけなかったりする。今、もう1円で法人は設立出来る。私は独立型社会福祉士の個人事業主になるかどうか、どういうふうにすればいいのかの研修をしていたので、そっち系は何となく分かる。やはり事業計画や保険について、そういった相談ができる先を少しでも思いがある方々に対してすぐに情報提供できるように知っておくことは必要かもしれない。そうでないと一から全部サポートしていくのは生活支援コーディネーターも大変だし、実際に事業設立の経験がある方とつながりながら一緒に支援したほうが支援される方もいいと思う。そのところを情報収集して全体で共有していただきたい。

(下野委員)

先ほどのちょっとした困りごとは、高齢者の方で例えば電球を替えられないとか具合が悪くて買い物に行けないとかいう場合は、実際にどこに相談したらいいのか。

(高良委員長)

これはもう随分この協議体でも話し合ったが、ちょっとした困りごとに対してはものによりけりだが、もちろん社協や包括もありで色々なところに相談できるけれども、全部を対応できるとは限らない。一番問題になるのが金銭管理の関係なので、先ほどきた包括の松村委員がおっしゃった悠友クラブはその助け合いが既にできているのですごいという話になっていた。

(下野委員)

利用する側として、実際に困ったときにどこに助けを求めているのかが分かり辛いので1か所まずここに連絡して、そこから必要なところに行く先が分かるといい。

(高良委員長)

それはもちろん包括だ。

(下野委員)

困ったらとりあえず包括に連絡すればいいのか。

(千田委員)

ここ数年地域活動をしていて、とにかく何かあったら包括支援センターに情報を聞きに行くことを知れてすごくよかったと思う。

それから、社協には窓口が幾つかあって分かりにくいと聞くと目的の窓口を教えて

くれる。だから固定的な場所である社協と包括支援センターが非常に頼りになると感じている。困った時には包括支援センターに情報を聞くことができるといいと思う。

（高良委員長）

困った時にどこに相談すればいいのかはそのとおりだと思う。だからこそ地域包括支援センターの総合相談ができ、社会福祉協議会の総合相談窓口がある。だからその情報が行き渡れば問題ない。そのためにもこの後の検討事項で検討していきたい。

（尾崎委員）

先月24日に民生委員の日になんでイベントを行った。そのイベントで社協と包括の窓口をつくった。関わったことのある方などのご存知のようだが、中々一般の方には周知できていないところがあり、機会のあるごとに民生委員も連携していきたいので、まだまだこれからも啓発が必要だと考える。

（高良委員長）

全くもってそのとおりだと思う。でも、ニーズ調査では小金井市は包括支援センターの認知度が割と高かったが、どのくらい分かるか。

（事務局）

56%くらいで、他の市と比べても小金井市は10ポイントくらい高い。

（高良委員長）

認知度は案外いいと思うが、もっと認知度を上げていく必要がある。

それでは、続いてにし包括の渕委員、報告をお願いします。

（渕委員）

令和7年度の活動と令和8年度の課題を基に令和8年度活動目標をつくった。

令和7年度はLINE登録者数が約40%増えたことから、令和8年度も引き続き情報発信に努めていきたい。今年度9月から公民館を使用する際に有料化されるということで、それに影響を受けるグループが圏域内にあるので、そういったグループの活動を支援していきたい。

また先ほどの話題にもあったように、にし圏域で10年以上団体のリーダーをされていた方が急逝されて運営に大変苦慮されていた団体があったことから、令和7年度は圏域内のリーダー達を集めて運営や活動などに関しての情報交換会を実施した。そこで活動場所が少ないことや、担い手の発掘の必要性があることを課題として改めて感じたので、今年度も同様の情報交換会を行っていこうと考えている。

また今年度からボランティアポイントの対象者年齢が引き下げられたこともあり、スマホサポーターを積極的に活用して相談会を開催したい。

また昨年度のお元気サミット後に会員が増えたと写真同好会の写友会から連絡をいただいた。こういった例から今年度は社協の地域福祉コーディネーターとも協働して、ニーズの把握や男性も参加しやすい活動団体の発掘をより一層努めていきたい。

（高良委員長）

何か質問等はあるか。

引き続き進めていただきたい。やはり公民館の有料化は活動に対して影響が出てくる。こればかりは仕方がないが、またそれに変わるような場所が開拓できるかというところと難しいのかもしれない。場所がなければなかなか活動もできない状況だと思うので、地域の中でどこか一緒に使うことができるような資源も探すことを市とも協力していきながらやっていただきたい。それでは、報告事項はこれで終わりにする。

2 議題（3）検討事項

地域課題について

(高良委員長)

検討事項に移っていきたい。地域課題について資料6を基に御説明をいただいた上で検討いただきたい。では、まずは事務局から説明をお願いします。

(事務局)

資料6をご覧いただきたい、地域に関心を持つ方を少しずつ増やすために、第2層生活支援コーディネーターの活動についての継続的な情報発信をしていくことが大切だと思う。即効性はないかもしれないが、継続することで何かが変わっていく事を期待したい。そこで、有効な情報発信手段や頻度について検討いただきたい。

(高良委員長)

発信については先ほどの説明資料にあるように色々な方面からやっているが、まだまだ必要な方に届いていないのと思う。先ほども意見があったように、活動を継続していく為の後継者がいないとか、中々こういう課題解決に対してキーマンになる人がいないというところにつながってくる。

本日は第2層コーディネーターの活動をどのように発信していくのか、また、発信することで地域のことを知ってもらい、それが少しでも個々の活動につながるようにするには、どのように発信していけばいいのか検討いただきたい。中でも先ほど事務局から説明があったように、開催に関する周知はずっとやってきているが、むしろ報告などの発信をどうしていけばいいのかについてぜひ意見をいただきたい。できる限り生活支援コーディネーターではない方々から意見をいただきたい。

(千田委員)

やはり知らない人がまだまだいる。例えば、70代前後の方でも市報を見ていない方もいる。地道に色々な場を作って周知するしかないと感じる。そういう意味では包括支援センターや社協を中心に、より多くのそういう場作りをしていくしかないと感じる。

それともう一点、役割をいきなりお願いするのは無理だと思う。我々も非常に悩みなのだが、会員は増えていても中心になってくれる人が増えているわけではない。なので無理やりではないが比較的若い人に理事をお願いして、活動のサポートをしてもらうように声掛けしている。仕事をしていない方はやってくれるが、比較的若い方をどれだけ発掘できるかだと思う。町内会でも一緒だが、やはりそういう方が少なくなっていると感じていて、逆に自らやると言って入ってくる方は空回りする方が多い。思い込みで動き出し空回りする方が多いので、会社員と一緒にしっかりと自分の立場を分かって仕事をする方に入ってきてほしい。

(高良委員長)

場作りはとても重要なことだと思うし、先ほどの報告で地域デビューのきっかけアンケート結果でお分かりのように、市報もそうだがLINEもXも含めて色々な方法でやらざるを得ないと思う。その中でも情報発信の手段としての写真は、一番イメージを伝えやすい。ただ、一方で写真を市報やホームページにあげるのは個人情報の関係があるので、個々に承諾をもらわないといけないので大変だと思う。

(尾崎委員)

今回市報の5月1日号にて鈴木委員にモデルになっていただき民生委員の啓発とイベントの周知を行った。実際に民生委員2人と市民の方に承諾いただいて市報の表紙に掲載いただくことで、身近に感じていただきこういう人が民生委員をやっている

のねという声や反応が色々な委員や市民の方から入ってきた。最近、民生委員の制度が弱くなってきているので、親しみを持ってもらったり、身近に感じていただくために思い切ってこういう企画を考えた。イベントにも市報を見て来たという方も結構いたので写真は本当に有効な手段だと思う。

(高良委員長)

鈴木委員、何か反応はあったか。

(鈴木委員)

反応については。とにかく恥ずかしく、無視してほしいとお願いしていた。

(尾崎委員)

一緒に写ってくださった市民の方は近所の方や知り合いの方から電話がきて、ちょっとうれしかったと感想をいただき親しくなるきっかけになった。

(高良委員長)

生活支援コーディネーターの方々は顔を出して、発信しているか。

(松村委員)

もう散々出している。

(高良委員長)

やはりそうか。

(松村委員)

ユーチューブ動画も5本撮影した。また、3月に三鷹市の防災フェスタに行ったら、ユーチューブに出ていましたねと声をかけていただいた。多分市民ではなく関係者の方だと思うが、三鷹市の包括の方とか国分寺市の社協の方とかそういう関係者だと思う。その方からどうやって動画を作っているのか、どこと連携しているのか、まちおこし協会って何みたいな質問を受け、そんなことで注目いただいている。

先ほどの鈴木委員の市報の写真がすごくよかったのだと思う。

お金の啓発のパンフレット作成の際にプロボノの方に入ってもらっていただき、周知をどうすればいいかについて色々な話が出たと思う。そのときのアドバイスで私が心に留めているのが、最低3回は触れないと、市報、掲示板、口コミとか、そんなふうに複数のメディアで触れないと人は動かないという話があった。

また、5月24日のイベントについて市報に載ったこと、公民館など他のホームページで掲載していることや、きた圏域で毎月行っている2層協議体の中で民生委員の方からぜひ紹介してほしいという話があり、ただチラシが手に入らなくて、仕方なく市報を切り抜いて、市報配布の時期をずらして24日のイベントなので20日にきた包括LINEで流すといった工夫をした。

(高良委員長)

すばらしい。では実際に活動したことを例えば第2層協議体を先ほど毎月開催されているところでも開催の報告をされているのか。

(松村委員)

そこについては、本当に地域の皆さんのニーズがあるのかという検討が必要だと思う。私の取組や生活支援コーディネーターとしての活動が、今、きた包括LINEに登録して下さっている240名の方のニーズに合っているのかという思いがある。

ただ印象としてはLINEを見ての講座の申込みや、問合せが増えている。また、色々な団体や町会からきたの包括LINEで講座等を紹介してほしいという声もある。

自分としては地域の幅広い活動やシニアに限らず色々な地域の活動団体、シニアの応援ブックに載っている団体のほか、町会の活動の周知にも力を入れていきたいと考

えている。町会の活動を知らない方が多いので、実際に町会の熱心なところの御案内や、あと自身が声をかけいただいて参加した時には、町会の防災訓練や緑長生会の総会に参加しましたとか、そんな感じで報告している。

(高良委員長)

しっかりと報告しているが、報告等をしたことで何か変化や、反応はあるか。

(松村委員)

そこはまだないが、町会の方との関係はすごくよくなっていて、そこはシニアに限らず現役世代といかにつながっていくかということでも町会との連携は大事なので、町会の方からLINE等見たよとか、次もこれをお願いと言われるとすごくありがたい。そこは連携の強化につながっていると思う。

(鈴木委員)

町会の情報配信は、まだ紙を使っている。町会だよりを市民掲示板に貼っている。徐々に電子化したいと考えているが、先ほどの報告で高齢者の方はどれくらいLINEを見ているのか。それはちょっと加速しないといけないと思う。

(事務局)

先ほどのLINEやXで配信したLogoフォームのアンケート調査の結果では、市のLINEの登録をしている方全員に送付したわけではなく、60代から70代以上の方と年齢未回答の方のうち、ご自身で閲覧したい情報のジャンルを健康・福祉と市民活動・生涯学習を選択している方が2,313人いた。また、抽出条件として閲覧したい情報のジャンルや対象年齢を変えるとまた対象人数は変わると思う。

(高良委員長)

これだけスマホのサポーターの活動先や、スマホ講座等に参加してる方がいることを考えると、ある程度の高齢の方々もLINE等を使っていると思う。それ以上に若い方は当たり前のように使っているので、かなりの割合でLINEを利用している方が増えていると思う。

(鈴木委員)

ちょっと質問がある。LINEを活用するにはLINEを接続しないといけないと思うが、どのように登録すればいいのか伺いたい。

(高良委員長)

それはLINEのお友達登録等をする必要がある。

(鈴木委員)

今、町会でLINEでの情報を発信しようと考えているが、ちょっとLINEの接続が無理かなと思う。そうでもないのか、できるのか。

(高橋委員)

オープンチャットという機能があり、これは一見グループラインのように参加できるが、興味関心事や日常生活に密着した話題についてトークルームの中で会話や情報交換が楽しめる。なので例えば武蔵小金井駅周辺の飲み屋好きな人でグループをつくる。そのグループに入ると参加者が互いに、最近このお店が閉店したとかそういった情報をグループの人たちと共有できる。ただ、そこに参加した方は、お互いに登録し合えないようになっている。

(高良委員長)

町内会の方々だけのグループを作りたければ、やはりLINEのお友達登録をして町内会グループを作ることになると思う。

(河合委員)

下野委員の情報配信はLINEを活用していると思うが。

(下野委員)

私は公式LINEアカウントを作っている。オープンチャットは参加している方同士がトークルーム内で会話や情報交換が出来るが、私が管理しているものは個人とのやり取りができる。私が情報を発信すれば皆さんにメッセージが行く、皆さんから私にメッセージをいただくこともできる。ただし、トークルーム内の横のつながりは出来ない。

(高良委員長)

それぞれLINEも機能が目的に応じて色々なパターンが出来ていて、そういう機能を活用しやすくなっている。第2層生活支援コーディネーターの方々もそれを利用して、つながってなくても発信することも出来るし、一方で自治会みたいな閉じたグループでの連絡方法として活用することも出来る。いずれにしてもLINEは1つの有効な方法だと思うので、それをどのように、何の目的でどう活用するのかをしっかりと考えなければいけないし、どういう方々に焦点をあて何のためにやっていくのか考えながら活用していく必要がある。

今日の課題では、できる限り実施したことを発信することで、今まであまり知らなかった人たちにも情報を届けるにはどうすればいいのか、提案や成功事例があれば共有していただきたいのだが、下野委員いかがか。

(下野委員)

LINEの発信と包括にお知らせをお願いするなど、私も周知には苦労しているので色々知りたい。私は主に環境楽習館という市の施設を使っているので、その利用者が結構増えていて、そこにチラシを置くことで連絡をくれる方もいる。

(高良委員長)

やはりLINEだけではなく、チラシなども併せて色々な方法で周知することが大切だ。

(千田委員)

今年の話だが、地域参加講座を生涯学習課から委託されて開催しているが、今年の参加者がコロナ以降で一番多くて何で知ったのかを聞いてみると、今年初めて包括センターでチラシを見た方が3人、包括支援センターのLINEを見たという人もいた。今年になってそれが非常に有効な周知手段になっている。また、半分は市報ではなくてチラシや包括支援センターだとか公民館だとか、我々のホームページで見たという方だった。今年は初めて社協にチラシの配架を依頼したところ、社協からの申し込みが1件あり、引き続き諦めないで広めていきたいと思った。

(高良委員長)

そういった活動は特に写真を使いながら発信していくことだと思う。その発信の手段はいま色々と複合的にやっていくことが必要だと思う。ほかに何かあるか。

(尾崎委員)

お元気サミットのイベントについて少し視点を変えて、パネル展示だけではなくて、実際に相談者と触れ合いが出来るコーナーを作るなどしてみてもどうか。少し変えることで来てくれる方や、あとターゲットの方だけではなくて違う年代の方や、高齢の方の家族とつながっていくのも1つの方法だと考える。

(高良委員長)

今年度も色々イベントを考えていると思うので、これまでのやり方を続けつつ、また新たな形で地域包括支援センターや生活支援コーディネーターの方々及び、生活支

援コーディネーターの活動周知のブースを設けるなどの検討をしていただき、今あるものをいかに活用していくかの視点でやる必要があると思う。

(千田委員)

先ほど、スマホちょこっと相談室が6月24日の「あさイチ」で放映されることについて、市ではホームページ等でPRするのか。

(事務局)

まだ正式に決まっていないので、正式に決まればLINE等でお知らせするかもしれない。内容によりけりだがある程度の尺を取ってあればお知らせもできると思う。

(千田委員)

我々のメンバーには知らせたいと思っている。市のホームページなどに出れば分かりやすいと思う。

(高良委員長)

ホームページ等でお知らせいただくことは、スマホサポーターの活動の周知になると思う。

3 その他

次回協議体の開催予定

4 閉会